

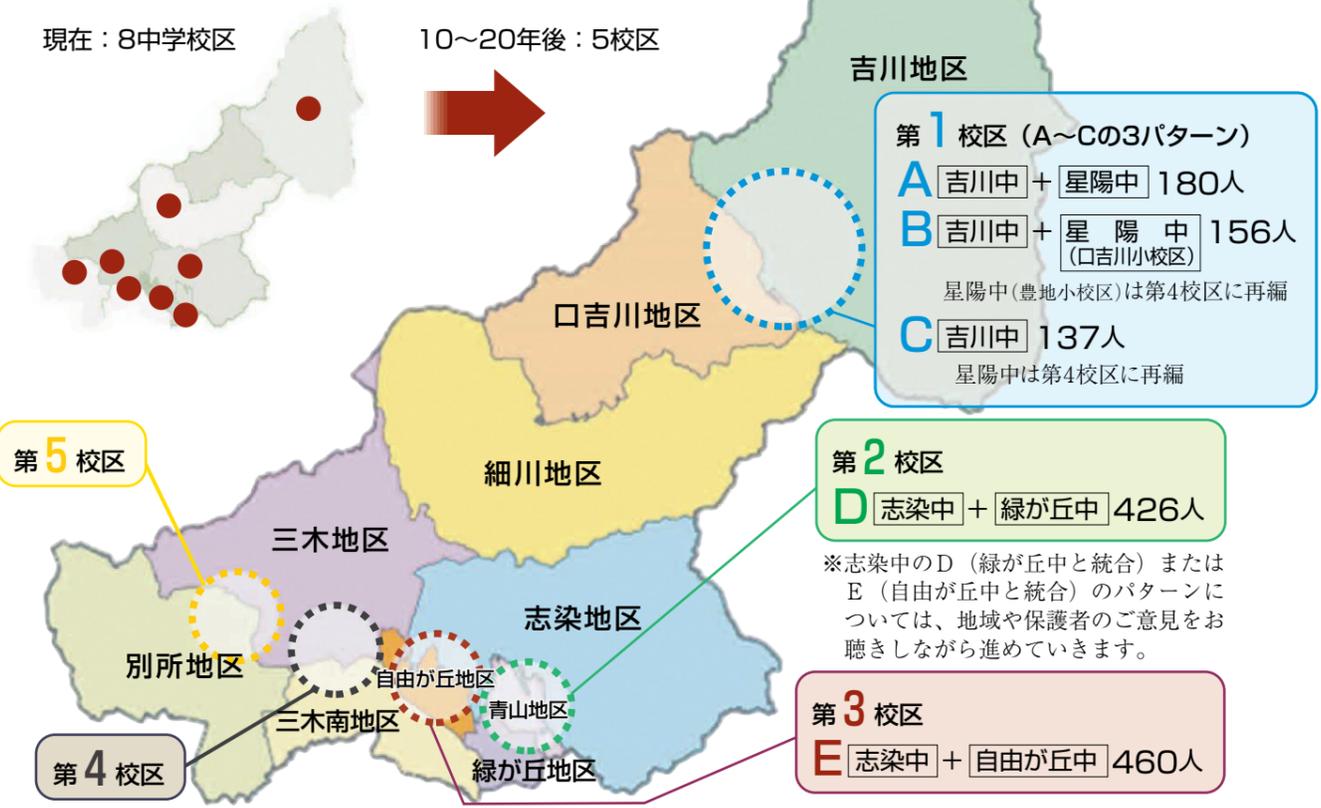
求められる学びの実現に向けて

第1段階として、小規模化が進む学校について、学校の適正規模に向けた統合を行います。まずは、志染中学校、星陽中学校、吉川4小学校について、地域や保護者のご意見をお聴きしながら統合を進めていきます。

第2段階として、10年後から20年後の子どもの数を見据えながら、小中一貫教育を行う学校への再編を考えています。なお、第1校区については、すでに小規模化が進んでいるため、再編時期は別途検討します。

学校再編のイメージ

- (説明事項)
- ・市の東部に位置する校区から順番に、仮に第1校区から第5校区としています。
 - ・点線で示した円は、児童・生徒数の状況を考え、施設一体型小中一貫校を設置する位置の目安を示しています。
 - ・A~Eのパターンについては、地域や保護者のご意見をお聴きしながら進めていきます。
 - ・第4・5校区の学校の組み合わせについては、今後の児童・生徒数の動向を勘案して検討します。



※人数は、平成30年5月1日現在で中学校に在籍している生徒数



新しい学校づくり ~学校再編のイメージ~

子どもたちが生きていく未来は、急激な社会の変化が予想されています。技術革新などは、人々の生活を豊かにする一方、変化に戸惑うことも考えられます。子どもたちが生きる未来を見据え、今、付けるべき力を明らかにし、学びの環境を整えなければなりません。

市では、多様な人との触れ合いを各学校において維持していくため、適正規模をめざした学校の統合を進め、異学年の児童生徒の関わりや9年間の継続した教育を推進できる小中一貫教育をめざします。

問(市)学校教育課

求められる学び

- 現在、学校では「主体的・対話的で深い学び」に取り組んでいます。
- これまでに自分が学んだことを振り返り、次につなげようとする「主体的な学び」
 - 子ども同士、教員、地域の人との対話などを通じ、自分の考えを広げ深めようとする「対話的な学び」
 - 知識を相互に関連付けて理解し、必要な情報を抽出して、問題の解決策を見出すなか、新たな価値を創造しようとする「深い学び」



Point

「自分自身で深く思考する学び」と「グループや学級での協働的な学び」を相互に関連付けながら、他者と共に課題を解決していくための力を育成することが求められています。

子どもたちが生きる未来

情報化やグローバル化、少子高齢化などの進展



急激な社会変化
複雑で予測困難

付けるべき力

- 生きて働く知識・技能の習得
- 未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成
- 学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の養成